

●視点を変え、物事の全体像を捉える必要性

「鶏の卵は丸い!」と言ったら、一瞬、周囲の空気が変わるのではないのでしょうか。「鶏の卵は楕円形に似た“たまご型”だよ!」と否定されてしまいそうです。しかし、鶏の卵の形が真丸に見える視点が、両端に二つだけあります。また、円柱だって、見る角度によっては、四角形であったり、真丸であったりするのであるから……。

私どもの生きている世界にしても、自分のいまいる場所から見える風景には必ず何らかの制約が加わっているため、各人のいる場所によって独自の見え方が生まれます。そして、同じ場所で生活している人たちとだけで日々会話を交わしていると、いつの間にか、自分たちの立ち位置で見ていたものがすべてであるような感じになってきます。別の視点からの異なった見え方があることが理解できないまま、つい別の見え方を軽視するか無視してしまうことにもなりかねないように思います。いえ、異なった見え方があることが頭の片隅にさえ浮かばないようになるかもしれないのです。

つまり、物事の全体像が見えるようにするためには、自分の立ち位置をいろいろと変えてみるか、自分の立ち位置を変えることが難しい場合には、別の場所で見ている人にどのように見えているものなのかを聞いてみて、自分の頭の中で全体像を描いてみるのがとても重要になってきます。

今回は、このことをCRCやCRAをはじめとする多くのスタッフが働いている「臨床試験チーム」(図1)を例として取り上げて、考えてみたいと思います。医薬品や医療機器の臨床試験は、多くのスタッフ(プレイヤー)が協働して働くチームで行うものです。まさに「臨床試験チーム」であり、「ザ・チーム」なのです。「臨床試験チーム」がチームとして機能するためには、チーム内の各プレイヤーの協働が成り立つことがキーになります。チームとしての目的と情報を各プレイヤーが共有して初めて、各プレイヤーの間での協働が生まれます。

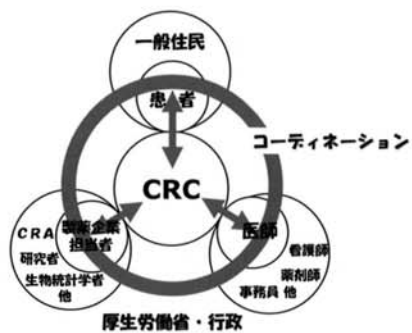


図1. 臨床試験チーム (The team)



なかの・しげゆき 岡山大学医学部卒。スタンフォード大学医学部臨床薬理学部門に留学。大分医科大学臨床薬理学教授、大分大学医学部附属病院長、大分大学学長補佐などを歴任。大分大学名誉教授。大分大学医学部創薬育業医学教授、国際医療福祉大学大学院教授を経て現職。日本臨床薬理学会名誉会員(元理事長)・専門医・指導医、日本臨床精神神経薬理学会名誉会員(元会長)、日本心身医学会功労会員・認定医・指導医、日本内科学会認定医、臨床試験支援財団理事長。響き合いネットワーク連絡協議会理事長として、医療コミュニケーションを学ぶ全国的なワークショップ(大分、岡山、東京、長崎、山形、湯布院)の企画・運営に携わっている。
http://www.med.oita-u.ac.jp/pharmaceutical_medicine/index.html

●「病人が対象の世界」と「疾患が対象の世界」

医薬品や医療機器の有効性や安全性は、患者に使ってみて、被験者となる患者の反応を通してしか評価できません。臨床試験はこの厳然たる事実(あるいは制約)からスタートするのですが、患者が治療を受けている「医療の場」の中に「臨床試験の場」が入り込んでくるのが、多くの臨床試験の姿なのです。前者の「医療の場」では、患者の治療が目的です。個々の患者は、自らが最善の治療を受けることを希望しています。「病人が対象の世界」と表現することもできます。一方、後者の「臨床試験の場」では、科学的手続きにより信頼性の高いエビデンスを得ることが目的です。科学的な手続きでは、疾患が対象になり、症例となる患者のデータが取り扱われます。「疾患が対象の世界」と表現することもできます。

CRCは、「病人が対象の世界」と「疾患が対象の世界」の両方にまたがった領域で働いています。したがって、「個々の患者の顔が見える世界」から、被験者となる患者の反応をデータに変換して、「症例のデータ」に置き換える場で働いていることとなります。医師が臨床試験を担当するときにも、臨床試験担当医師となって働くこととなりますので、CRCと同様のことがいえます。そこで、図1の中央に斜線を記入してみると、この関係が分かりやすくなります(図2)。

「CRCと臨床試験のあり方を考える会議」(略称: CRCあり方会議)は毎年秋に開催され、約3500名が参加する熱気のある会議に育っていますが、会議のコンセプトが徐々に「患者のためになる」質の高い医療を求めて、「CRCと一緒に」考えてみよう!」に変わってきました。「CRCあり方会議の「こころ」といってもよいと思います。図2の左下の「疾患を対象にし

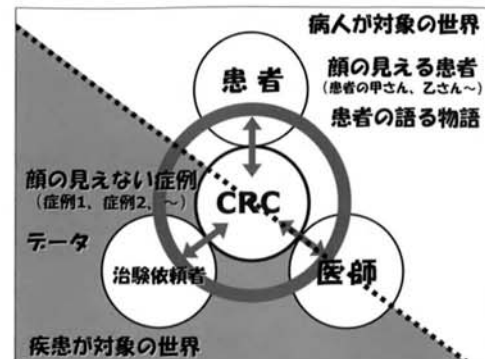


図2. 「病人が対象の世界」と「疾患が対象の世界」:
CRCは両方にまたがる領域で働く職種

た世界」で働いているCRAを含む多くの職種の方々にとって、CRCの語る話を聞き、CRCとディスカッションする機会は、視野を広げるのに役立つはずであり、逆にCRCにとっても、有意義な時間を共有することになるように思います。

現代は専門分化の進んだ時代です。今後ますますこの傾向は進行していくものと予測されます。したがって、これから求められる人材には、創造性(Creativity)とコミュニケーション(Communication)能力が求められます。ここでいう創造性とは、小さな工夫から大きな改革まで、外的なことから自分自身の内面的なことまでを含み、目の前に生ずるいろいろな問題を発見し、解決し、改善する能力です。CRCあり方会議の「患者のためになる質の高い医療を求めるところ」, Creativity, Communicationの3つは、CRCやCRAにとって、成功に導く「3つのC」といってよいキーワードだと思います。